

「農業」を柱とした西讃地区の地方創生について

香川県立観音寺第一高等学校 1年 秋山 陽色

私が生まれ育ってきた香川県は、気候が温暖で、自然災害も比較的少なく、農業や漁業もさかんで地場でとれた野菜や魚を食べることができ、面積は日本一狭いけれど平地が多く車があれば移動もしやすく、娯楽施設もそれなりにあって、とても住みやすい地域だと思います。特に個人的には、出身地である観音寺市と近隣の三豊市からなる西讃地区に愛着があり、大人になっても住み続けたいと思っています。

しかし、西讃地区が直面している課題があります。それは急速な少子高齢化に伴う人口の減少です。平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査では、観音寺市の人口は 59,444 人、三豊市が 65,566 人で、合わせて 125,010 人になり、これは香川県の総人口 976,756 人の約 12.8%になります。香川県の人口も減少傾向にありますが、西讃地区の減少幅は大きく、10 年前の平成 17 年 10 月 1 日の 136,406 人から 1 万人以上減っていて、県に占める構成比も 10 年前の約 13.5%から 0.7%減っています。

この人口減少の主要因の一つとして、若い世代の人口流出があげられます。三豊市が平成 20 年に実施した市民アンケートでは、若い層ほど定住志向が低く、「別の場所に移りたい」と答えた人の理由として、「交通の便が悪い」「買い物に不便」「娯楽や遊戯施設が少ない」などが多いという結果が出ています。また、子どもへのアンケートでは、働きたい職業や場所がないので移住したいという回答がありました。このことから、若い世代の人口流出を止めるためには、定住を促す魅力ある職場の確保のための新たな企業誘致の推進や、農水産業・商工業のさらなる振興と担い手の育成を図ることが欠かせないといえると思います。

また、西讃地区の特徴として、農家が多いということがあげられます。香川県農政水産部の平成 27 年度調査結果によると、高松市が総世帯数 182,005 戸のうち、総農家数 8,682 戸で、農家率 4.8%であるのに対して、観音寺市は、総世帯数 21,909 戸のうち、総農家数 3,067 戸で、農家率 14.0%、三豊市に至っては、総世帯数 22,752 戸のうち、総農家数 5,107 戸で、農家率は 22.4%にもなります。これは、丸亀市の 7.2%、坂出市の 8.5%と比較してもかなり高い数字だと思います。農家が多い西讃地区では、少子高齢化の影響で、実際に農業をしている人の高齢化が進み、後継者不足の問題を抱えます。実際に三豊市で農業を営む祖父母に話を聞くと、周りは自分たちと同じ 70 代から 80 代の高齢者が中心で、後継者がいなく休耕田になっているところが増えているそうです。森林や農耕地に人の手が入らなくなり、山の荒廃や遊休農地の増大が進むという問題に直面しています。また、せっかく若者が農家を継いでも、農家への嫁入りが嫌がられ、結果として未婚化・晩婚化が進み、地域の少子化が加速するという現実もあるようです。

そこで私は、西讃地区の魅力あるまちづくりのために何が提案できるのか、西讃地区の産業の柱である「農業」を中心に、「ご当地ブランド」「観光」「法人化」「女性」というキーワードをリンクさせたプランを考えてみました。

- ① ご当地ブランド化の育成と、その情報発信の強化
- ② 農業体験など、参加型のツアー企画の推進
- ③ 農業の法人化と女性の活用

まず、第1に、観音寺市や三豊市を全国的に知ってもらうために、ご当地ブランドの育成と、そのPRが必要だと考えました。代表格として、讃岐うどんや松坂牛などがありますが、他にもB級グルメのグランプリを取れば、一気に全国区になることが可能です。また、意図的に地域の農作物のブランド化を進める動きは全国的にあり、例えば、福岡県糸島市の「糸島ブランド」などは、癒し、安全・安心のイメージで、全国展開を図っています。西讃地区にもご当地ブランド化できそうなものはたくさんあると思います。例えば「三豊なす」は、通常のなすの3倍ほどの大きさで、見た目のインパクトもあり、PRするにはうってつけの農作物だと思います。他にも西讃地区で香川県の約45%を栽培しているレタスなどの農作物に加え、伊吹島のいりこや、おいらなど面白いのではないかと考えます。

2つ目のプランは、実際に西讃地区に来てもらい、農業を体験してもらうことだと思います。香川県自体は、「うどん県」のPRが大成功し、結果として、観光客が増加傾向にあります。また、平成27年香川県観光客動態調査によると、観光客の72.7%がさぬきうどんを食べたとの調査結果があります。そこで、観音寺市や三豊市にもさぬきうどんの有名店が数多くあるため、うどん店巡りと農業体験をセットにしたツアーを企画してみてもどうかと考えました。もちろん、せっかく観光で訪れてしんどい思いを体験してもらうのではなく、例えば、採れた野菜をその場で調理して食べられるなど、時間をかけてでも参加したいと思わせる仕掛けが必要だと思います。これには、自治体や地場産業の企業・団体による支援が不可欠だと思います。また働いている人は、1泊か2泊が滞在の限界だと思いますが、仕事を定年退職したシニア層をターゲットにして、できる限り長期の滞在型観光にできれば、より西讃地区を深く理解いただけるのではないかと考えます。また、近年、爆発的な消費力がビジネスチャンスとなっている訪日外国人を取り込むことができれば、一気に観光客の増加につながれると思います。

そして3つ目のプランは、農業の法人化と女性の活用についてです。近年、法人組織の農業経営体が増えてきていますが、香川県では、全体の約98.5%が家族経営の農家になっています。少子高齢化に伴い、誰が農業を継ぐのかという大きな課題に対して、農業法人を

立ち上げ、親族に関わらず、後継者を育てるといった対策が必要ではないかと考えます。そこで、着目したのが、女性の活用です。農家で生まれ育った人でなければ、女性で農業というイメージはあまりないかもしれませんが、従来の生産者視点ではなく、消費者視点や生活者視点に立って物事を考えられること、本能的に「育てる」という仕事に向いているという観点から、農業の経営に向いているのではないかと考えました。もちろん農業は重労働ですが、子育てをしている母親でも、保育所の送り迎えに合わせて、時間の融通をつけたりすることも可能ではないかと考えます。もし、こうした取り組みを他の自治体に先駆けて、西讃地区が導入し、それをPRできれば、街のイメージアップにもつながるのではないかと考えます。

最終的に、上記3つのプランのどれか一つでもうまく行けば、新しいサービスが必要となり、若い世代にとっても雇用が生まれ、街が活性化するのではないかと考えます。私自身、今回の取り組みによって、改めて西讃地区の課題を認識し、地方創生が簡単なものではないことを知りました。だからこそ、今後もこの地域で住み続けたいと考えている若者の一人として、少しでも地域のために貢献していきたいと思えます。

参考文献・資料

国勢調査 平成27年および平成17年

2015年農林業センサス 農林業経営体調査結果概要（確定値 香川県分）

公開日：2017年2月15日

平成27年香川県観光客動態調査報告 平成28年7月

三豊市新総合計画-自立への助走路- 平成20年12月